慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話＝(3353)1211（大代表）

祝卒業・医学部105名―春の旅立ち

平成18年度卒業式

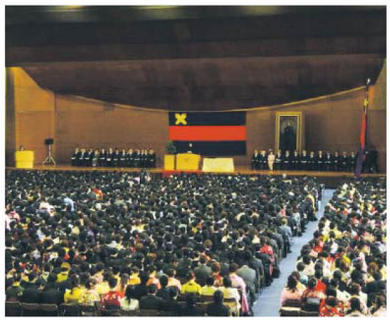
平成八年度大学卒業式が三月二十三日、日吉記念館で行われた。空は生の門出を祝ふのにふさわしい天候となった。日吉キャンパスの銀杏並木は、大勢の卒業生とその家族たちによって賑わっていた。式典は午前十時定に開始された。なお、本年度の卒業生は全九学部で六、五九〇名、うち医学部は一〇五名であった。

式典は開式の辞に始まり、まず西村太良常任理事による学事報告があり、各学部の卒業者数および表彰者数が報告された。次いで各学部の代表者への学位記授与が行われ、医学部代表として増田義之君が壇上に上がった。続いて各種表彰が行われ、医学部からは、まず大学表彰規定による表彰、すなわち主席として竹下勝君が表彰を受けた。続いて小泉体育努力賞として、医学部競争部所属で医学部五年の薗田一君、医学部ゴルフ部所属で医学部四年の近藤賢一君以下八名が表彰され、最後に塾長賞ならびに塾長奨励賞の表彰が行われ、医学部五年の丸山健太君が、骨代謝に関する因子rgsが細菌感染に抵抗性を付与して「骨自然免疫学」という新規学術分野の構築として国際的に評価され、塾長賞を授与された。

各種表彰の終了後、安西祐一郎塾長が式辞を述べた。塾長は、義塾で過ごした時間、思い出が人の原点となり、未来の先導者として、自信と誇りを持って社会に旅立つ欲しい、と結んだ。

次いで翁百合・株式会社日本総合研究所理事が塾長代表として祝辞を述べた。続いて環境情報学部の詹東豪君が在学生総代送辞を送った後、これに対して商学部の森川荘一郎君が卒業生総代答辞として、社会に出ても八年に百五十周年の決意があったとの決意を述べた。最後は会場にいる教職員、卒業生ならびに来賓二十五周年を迎えた塾員などを含めた、慶應社中による塾歌斉唱が行われ、午前十一時二十五分に閉式となった。

引き続き、同会場で二〇〇七年三田会結成式が行われた。



平成18年度

「塾長賞」受賞に寄せて

丸山健太（医学部五年）

このたび塾長賞を頂戴し、大変光栄に感じております。特に、RANKLの持つ自然免疫抑制効果に関する論文はImmunolの巻頭でハイライト表紙、ギリシアにて開催された第一回国際骨免疫学会で受賞できたものです。この場を借りて御礼申し上げます。

昨年度、優秀学生懸賞事業「大賞」にも選ばれており、今後は、昼は研究と読書、夜はジャズピアノという自身のライフスタイルをエンジョイしつつ、さまやかながらもできる限りの自分の世界を独創的なものにポリッシュする努力を続けていこうと思っております。

治療に応用可能な技術・最後になりましたが、今回の塾長賞は私一人の力だけではなく、自分の好きなテーマを自由に追求することを許していただいた微小血管研究室の諸先輩方、そして、微生物学・免疫学教室第三研究室の皆様のおかげで受賞できたものです。

この場を借りて御礼申し上げます。

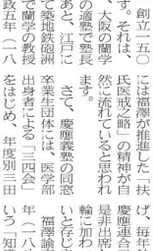
・総論を通して新学際領域「骨自然免疫学」を提唱しており、こうした一連の学術活動の成果は、導因子RANKLの自然免疫抑制・エンドトキシンショックの予防作用などを明らかにし、炎症診断・最後になりましたが、今回の塾長賞は私一人の力だけではなく、自分の好きなテーマを自由に追求することを許していただいた微小血管研究室の諸先輩方、そして、微生物学・免疫学教室第三研究室の皆様のおかげで受賞できたものです。

この場を借りて御礼申し上げます。

医学部卒業の皆さんへ

連合三田会会長　服部　禮次郎

このたび、伝統と実績と将来性に輝く慶應義塾大学医学部をめでたく卒業された皆さんに心から仲間一同を代表して、高らかに歓迎のメッセージを送りするものであります。また、皆さんが、卒業と同時に「塾員」となられたことに対し、塾員一同を代表して、高らかに歓迎のメッセージをお送りするものであります。また、皆さんが、卒業の御祝を申し上げまして、



わたくしたちの母校慶應義塾は、いよいよ明年（二〇〇八）創立一五〇年を迎えます。それは、福澤諭吉が、大阪の蔵屋敷緒方洪庵の適塾で塾長をつとめたあと、江戸に呼び出されて築地鉄砲洲の奥平邸内で蘭学の教授を始めた安政五年（一八五八）から数算したものであります。福澤は師洪庵を終生尊敬し、洪庵は